

本年度の重点目標

・児童生徒一人ひとりの障害の状態等に応じた指導の一層の充実  
 ・保護者・地域と連携した社会に開かれた学校づくりの推進  
 ・安全・安心な学校づくりの推進  
 ・地域における特別支援教育のセンター的機能の推進

領域	重点評価項目	中間評価(10月)	総合評価(3月)	
		自己評価	自己評価	学校関係者評価
1 学校経営	教職員一人ひとりがよりよい学校づくりに主体的に参画している。	B	B	A
	家庭・施設・病院等との密接な連携を図り、地域に開かれた学校づくりに努めている。	B	B	A
2 教育課程・学習指導	児童生徒の実態に応じて、個別の指導計画に基づき、適切に教育活動を行っている。	B	B	A
	社会的自立や生活的自立に向けて、職業教育や自立活動を推進している。	B	B	B
3 生徒指導	多様な児童生徒の実態に合わせた、きめ細かな生活指導に努めている。	B	B	A
	児童生徒会の充実を図り、自主的自発的な活動意欲を育てている。	B	B	A
	児童生徒の学校生活の把握に努め、いじめや問題行動を見逃さず適切に指導を行っている。	B	B	A
4 進路指導	児童生徒や保護者に必要な情報を提供し、保護者や関係機関等との連携を密にしている。	B	B	B
	児童生徒一人ひとりの自己実現に向けた進路指導を進めている。	B	B	A
5 保健・安全指導	心身の健全な発達を図るため、保健・給食・安全指導を計画的に行っている。	B	B	A
	児童生徒の事故・けが・病気等への対応等を適切に行っている。	A	A	A
6 人権教育	教職員の人権意識の向上を図るとともに、児童生徒の人権を尊重する指導を行っている。	B	B	A
	幅広い人権学習を通して、児童生徒の人権意識を高めるように努力している。	B	B	A
7 環境教育	清掃活動や体験学習を通して、環境について考えるための取り組みを行っている。	B	B	A
	節電やゴミの分別、牛乳パックのリサイクルなどを通して、児童生徒に資源を有効活用する大切さを指導している。	B	B	B
8 交流及び共同学習	地域や学校の実態に即しながら、社会性や好ましい人間関係を育てている。	B	B	A
	交流校や地域との連携を推進し、豊かな人間関係を築いている。	B	B	A
9 教職員の現職教育	授業研究やケース研究などを積極的に行い、指導力向上に努めている。	B	B	B
	一人ひとりの児童生徒のニーズに応じた合理的配慮が適切に行えるよう、専門性の向上に努めている。	B	B	B
10 センター的機能の発揮	地域および関係機関との連携を深め、特別支援教育のセンター的機能の推進に努めている。	B	B	B
	児童生徒個々のケースについて、担当を中心に組織的な教育相談活動を行っている。	B	B	B
11 その他学校の取り組み	避難訓練の実施、緊急時マニュアルの整備など、学校防災、危機管理体制の充実にも努めている。	B	B	A
	児童生徒がよりよい環境で学習や生活が行えるよう、教育環境の整備に努めている。	B	B	B

(注) ・評価については、ABCDの4段階で示す。

・生徒指導の欄に、いじめの項目を入れること。

・自己評価: ABCDの基準については、評価項目の内容が、十分に達成できた場合(達成度80%以上)はA、おおむね達成できた場合(達成度60%以上80%まで)はB、あまり達成できていない場合(達成度40%以上60%まで)はC、達成できていない場合(達成度40%未満)はDとする。ただし、アンケートの結果等を機械的にABCDの評価に置き換えるのではなく、学校の現状を真摯に分析・検討し、今後の学校改善につながるよう、適切に評価すること。